

令和5年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校評価（自己評価）

評価項目 (重点項目)	評価指導	目標 (方策・手立て)	判断基準	自己評価 (令和5年)	結果の考察・分析及び改善策
	<ul style="list-style-type: none"> 教育理念・課程に沿った授業計画・実践をしているか 	<ul style="list-style-type: none"> 「分かる授業」の実践。 シラバスを見直し再構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の講義導入時に学生にシラバス・授業計画を基に授業の目標・目的・進捗計画等を伝えたか。 担当科目のシラバスの作成・見直しを年度末又は年度当初に行ったか。 	<p>B (2.7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> シラバスおよび授業計画は、外部発信としてホームページに掲載するとともに教科担当者が授業開始前に実施できている。 「分かる授業」については、授業評価にて理解度などの確認しており教科担当者へフィードバックされている。また、授業中においても学生の理解度を確認しながら行われている。 自己評価が昨年度と比較し0.5ポイント 低下した。予定通りに実施できなかった科目などの増加が要因と考える。見直し改善を図る必要がある。 年度当初にカリキュラムの確認を行った。今後は、自動車業界のニーズに応えることが出来るようなカリキュラム及びシラバスを構築し改善を図る必要がある。 (令和7年4月1日より、整備士資格変更に伴う新カリキュラムに基づく二級自動車整備士課程が開始される) ●自己評価の推移 ・R4：B(3.2) ・R3：B(3.3) ・R2：B(3.1) 前期・後期開始時に学生にシラバスを配布し、全体の流れを説明することで学習目標・目的を明確にできた。 学生の理解度に合わせ、順序立てを改善、分かる授業へ取り組む事が出来た。 授業前に本時に進める範囲を事前に学生へ提示し、無理に内容を詰め込まずに授業を進める事を心がけている。 学生個々の理解度を分析しながら、授業の説明方法及びシラバスに沿った進捗を考え、定期試験内容もその年度に該当するものを作成する事を継続する。 年間計画と併せ、進捗状況や変更状況を伝達し、理解することが必要な項目や知識の重要性を伝え取り組んでいる。 毎年度の学生に併せた授業進行を行えるよう心掛け、授業ペースの変更や単元に使用する時間の見直しを常に行っている。 教務部及び科目担当者として、各科目の目的・目標をしっかりと伝え授業を進めることができている。法令などは毎年改正等が行われるため、最新情報を常に確認し随時アップデートを行い学生に伝えるよう心掛けている。 昨年度の学生の進捗を基に、今年度取り組むことができている。しかし、学生により理解度が異なるため毎授業確認を行い改善をしている。 当初シラバスで計画した進捗状況より若干の遅れの誤差がある。 次年度はできる限りシラバス通りに授業を進められるように計画をする。 シラバスの内容を展開し、昨年と同じ授業に関しては、シラバスを確認しながら授業内容を見直した。 授業では、資料などを増やしてより理解できるように内容を見直す。
1. 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点に立った教育方法の工夫をしているか 	<ul style="list-style-type: none"> 「建学の精神」の具現化に徹する。 <p>『建学の精神』 ～道義に徹し～ ～実利を図り～ ～勤労を愛す～</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業においてキャリア教育に関する指導を行っているか。またその指導の定着を図っているか。 進路や将来についての学生指導・アドバイスをを行っているか。また心がけているか。 	<p>B (2.8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員ともキャリア教育について指導しているが、遅刻や欠課時間が増加傾向にある。コロナ禍を経験した学生への対応の方法など対応改善が必要である。 社会人として働く事の大切さなど、学生との立場の違いを認識させることが重要である。 自動車整備士の求人数は多く、売りが市場である。しかし、昨年度の卒業生が1年未満で7.5%退職しており在学中におけるキャリア教育の指導に課題が残る。今後は更に、学生各々の性格に合わせた就職アドバイスが必須である。 7月に卒業生講話を行い、企業が求める人材、社会人にとって必要な要素など、学生へアドバイスを頂くことができた。 ●自己評価の推移 ・R4：B(3.2) ・R3：B(3.0) ・R2：B(3.1) 現場にて経験した話や、最新の自動車業界情報を入手した場合は、学生へ展開することができた。 企業が求めている人物像や、日頃からの取り組みの大切さを伝え、学生指導を行った。 建学の精神の具現化について 『道義に徹し』は、これまで以上に学生と私達の『道義』の定義についての考え方の溝を埋めていく努力が必要。 『実利を図り』は、その行動により、どのような利益が生まれるかをより具体的に示した指導ができるよう心掛ける。 『勤労を愛す』は、アルバイトに従事している学生が多いものの、その感覚を持ったまま就職させるのは避けるべき。2年間という短い時間の中で、仕事の大切さや尊さを少しでも理解させて卒業させられるように具体例を取り入れての説明や指導に努める。 座学講義及び実習授業において、実際の整備事例を紹介しながら各構造の理解度を高められるように努めている。 毎授業毎に、進路選択・決定のヒントとなるような助言を行っている。 自動車整備士としての社会観や人間形成に繋がる内容を授業内に確保している。 将来の仕事内容に置き換えた内容の伝達を行っている。 日章学園及び本校の目指す学生像となるよう、日々指導を行っている。 自らの立場をしっかりと理解させるとともに、就職後困ることのないよう社会人としての考え・マナーもしっかりと指導を行っている。 進路や将来について指導できているつもりだが、まだまだ伝わっていない部分が多い気がする。 次年度は指導する自分自身がしっかり芯を持ち、学生指導に全力を注ぎたいと考えている。 内定者であることを意識させ、学習やプライベートでの過ごし方について指導を行った。 社会人として行動すべきことを考えさせるように指導する。

令和5年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校評価（自己評価）

評価項目 (重点項目)	評価指導	目標 (方策・手立て)	判断基準	自己評価 (令和5年)	結果の考察・分析及び改善策
2. 学習成果	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得率向上を常に考え取り組んでいるか又貢献しているか 	<ul style="list-style-type: none"> 過去問題の分析や予想を怠らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の二級模試(12月期)において、担当した科目(1年・2年次に担当していた、又は担当している)のセクション平均点は6割を超えているか。 	B (2.5)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二級ガソリンと二級ジーゼル2科目の12月期における模擬試験の平均正答率は下記の通り。()は昨年度【ガソリン】エンジン：63.7%(76.2%)、ｼｯﾌﾟ：58.2%(66.2%)、工学：73.3%(80.0%)、法令：90.0%(94.0%) ⇒判定基準の6割は超えているものの、全体の落ち込みが見られる。 【ジーゼル】エンジン：50.0%(66.0%)、ｼｯﾌﾟ：44.9%(61.8%)、工学：54.0%(66.0%)、法令：74.7%(86.7%) ⇒判断基準の6割を超えているものは法令のみで、その他のセクションで低下が著しく見られる。 授業の進捗状況により毎年の状況が変わるが、正答率が若干低下しているため、学科会や学年会にて学生の現状把握やその改善の方策を組織で対応し理解度向上に努めていく。 ● 自己評価の推移 ・R4：B(2.8) ・R3：B(3.0) ・R2：C(2.3) ・ガソリンエンジン6割、ジーゼルエンジン5割の正答率となっている。 ・苦手な分野については、個別指導を行い理解度向上に努める。 ・12月期の模試の状況を国家試験担当の先生に確認しての評価となった。12月期にすべての授業が終了していない状況で、6割を超える成績を収める為の授業指導方法の構築ができるように現在、直接授業は受け持っていないが、提案・助言を行えるように基礎知識の徹底に再度取り組む。 ・時間の経過とともに忘れてしまう部分へのフォローに力を入れていきたい。 ・昨年度の苦手分野を分析し、工学や法令について理解方法やトレーニングを行っている。しかし、計算等は理解しても忘れてしまう傾向にある為、毎朝1日1問として国家試験に出題される計算問題を解き、定着化を図っている。また、随時個人面談等を通して各個人にあった課題や勉強方法を実施できるよう指導している。 ・学科内での情報共有が行えていない場合があるため、二度手間になることがある。 ・2級取得に意識をし授業できている。 ・次年度からはもっと早めの行動を心がける。 ・6割を切っているため、不正解の問題理解を行う必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> 就職内定率向上を常に考え企業との円滑な関係構築に取り組んでいるか 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事と連携した企業との密接な関係構築に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各業務の企業窓口担当者は、積極的に行動・提案して、円滑・綿密な企業対応に心がけ学生・学校の評価向上に務めたか。 各業務の企業窓口担当者以外は、担当者のサポートとして、事前準備等に積極的に取り組み、学生・学校の評価向上に務めたか。 		B (2.7)

令和5年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校評価（自己評価）

評価項目 (重点項目)	評価指導	目標 (方策・手立て)	判断基準	自己評価 (令和5年)	結果の考察・分析及び改善策
3. 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> 学生と平日頃から良好な関係を築き、学習・進路・生活の支援を行なっているか 	<ul style="list-style-type: none"> より良い学校生活が送れるように学生との会話に心がけ情報収集に尽力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科会、学年会、推薦委員会等の開催や開催要望等を行い、学生の情報共有に努め、学生がより良く改善するための指導等に対して積極的に問題提起・発言・発案を行ったか。 	<p style="text-align: center;">B (3.0)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝礼後の情報共有の場を設け、学級担任からの発言により学生の状況把握を行っている。さらに、教職員一人ひとりが情報発信と共有意識をもち、学生の状況が分かりやすい環境にしていきたい。 ○ 学科会において活発な意見が言える場となりつつある。学科職員が“学生が主役”であることの原点に立ち返り、入学してくる学生や父母等が「学校に求めていること（より良い職場、希望の職場への就職や確実な資格取得）」を再認識して学生が満足できる体制の構築をさらに図っていく。 ● 自己評価の推移 ・R4 : B(3.2) ・R3 : B(2.8) ・R2 : B(2.5) ・ 気になる学生については、休み時間などに声かけを行った。 ・ 朝礼後などを利用して学生の状態を把握できた。 ・ 教職員であることの自覚を持ち、学生に対しての言動について常に意識をしている。今後も立場を考えて学生への支援となるよう行動していく。 ・ 今年度は学生がより良くなるための問題提起や発言・発案を積極的に行った。各事項に対しての検討会(話し合い)の場を増やす要望や、議論・検討の必要性を提案していく。 ・ 現在の学生への適切な支援については、さらに深く、慎重に考えて実践していかなければならないと強く感じている。 ・ 学生の状況などの情報収集を行い、些細なことについても目配りや声掛けを常に行い、学生から相談されやすい環境を構築できるように取り組み、学生の注意すべき点など情報共有だけでなく、学生満足度を意識した問題定義、発案を常に行うよう心がけている。 ・ 今後は、情報共有だけに留まらず、全教職員が同レベルで学生と向きあうための協議を行う必要がある。 ・ 副担任や科目担当者として学生とは積極的に話し、少しの変化に気づけるよう日々アンテナを張り情報収集を行っている。 ・ 自分自身の業務を優先してしまい、他の先生方をサポート仕切れていない。また、担任の先生へのサポートにも不安を感じる部分がある為、広い視野を持ち業務をサポートできるよう取り組む。 ・ 学生に変化があった場合は副担任と協力し指導できている。 ・ 次年度は、さらに自分の考えを伝えながら細やかに対応できるようにしたい。 ・ 授業以外でも学生の様子を聴くようにし、面談を行うようにしている。
	<ul style="list-style-type: none"> 学生への目配りを怠らず、退学防止に努めているか 	<ul style="list-style-type: none"> 退学者を出さない目標を掲げ取り組む。 些細なことにも「気づこうとする」意識を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> やむを得ないと判断(管理職判断)以外の退学者の発生は出ているか。又、可能性がある学生を適切に指導できているか。 科目担当者として、必ず毎回授業中の情報を担任へ自ら提供したか。 	<p style="text-align: center;">A (3.5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 退学者の発生はない。クラス担任及び副担任が主となり学生指導を行っているが、時代の変化に伴い指導方法が難しくなっている現状がある。全体的には長期欠席も発生しておらず、常に退学防止に心掛けた取り組みが実施されている。 ○ 教員全員が学生とコミュニケーションを積極的にとり、些細な変化にも気付こうと取り組んでいる様子が見られる。この状況を維持し、退学者発生を防止していく。 ● 自己評価の推移 ・R4 : A(3.8) ・R3 : B(3.0) ・R2 : B(2.5) ・ 令和5年度の退学者は発生していない。登校していない学生などへは必ず連絡し、状況を把握するように取り組んでいる。 ・ 授業後に学生の取り組みなど担任へ情報提供を行った。 ・ 周囲の環境の変化や進路について精神的に不安定な1年生に対しての接し方や発言など、学生個々のモチベーションを維持させて学校生活を送れるように努めた。 ・ 自身も努力をしているが、今年度の退学者を防止できているのは、各学年担任の先生の力が大きいと感謝している。 ・ 学生個々への状況把握を今後一層強化し、対応を行っていく必要性を感じている。 ・ ご家族(父母等)との情報共有が必要な学生は、ご家族への連絡や相談、協力した指導を行っている。 ・ 学生個人への声かけを行うと共に、学生の状況等を担任に報告し、情報共有を行いながら継続指導を行っている。 ・ 今年度の退学者は発生していないが、怪我による休学者が発生した。 ・ 小さな変化に気づけるよう目を配り、声をかけている。また各授業での様子を科目担当者の先生へ聴き取りを行うよう心掛けている ・ 現在、他の先生たちの協力もあり退学者が出ていない。 ・ 次年度もこの状態を維持していきたい。 ・ 担任として、他科目担当者からも学生の様子を聞き、情報共有を行う。

令和5年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校評価（自己評価）

評価項目 (重点項目)	評価指導	目標 (方策・手立て)	判断基準	自己評価 (令和5年)	結果の考察・分析及び改善策
4. 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> 教室・実習場の整理整頓に心掛けているか又補修が必要な設備を放置せず報告したか 	<ul style="list-style-type: none"> 「学びの場」の環境保全を教職員・学生と連携して取り組む。 施設保全＝学生満足度と考える取り組み。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材・機器備品の使用は学科教職員も把握しているか、使用後の片付けや清掃は即対応しているか。 	<p style="text-align: center;">B (2.8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経年劣化した教材などを整理整頓し学習環境を整えた。授業で使用する教材は、既存の物を使用しての授業が多い状況である。それぞれの教員が教材を作成し工夫するなど、新たな取り組みなどが出来る環境作りが必要である。 授業中に使用している教材や備品の散乱が時々見られる。教職員が整頓の意識を持ちながら行き、学科全体として改善が必要である。また、教材や機材の修繕は、その都度行わなければならないが放置が目立つため、教職員全体で修繕が出来るように情報共有が必要である。 <p>● 自己評価の推移 ・R4：B(2.8) ・R3：B(3.0) ・R2：B(2.6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元が終了する度に、後片付けを意識し『元の位置へ戻す』ことを実行した。 引き続き学科教員全体での実行の呼びかけが必要と感じている。 補修が必要な設備や必要な教材に関しての依頼は十分行えたと感じる。 授業時間中での後片付けや清掃の徹底を図りたい。 担当外の授業教材等や学校全体の設備や教材への気配りを行い、より良い学ぶ環境の改善に努める。 早期の清掃等を実施し校内美化に取り組むことで、学生の登校前の環境作りや施設保全および過ごしやすい環境作り、改善策を提案している。 共有機器、備品、工具は毎回片付けるよう心掛けている。しかし、整理整頓が教員メインとなっているため、今後は学生巻き込みながら実施出来るよう取り組んでいく。 老朽化も進み、他の施設等で事故の報告が相次いでいる。リフトや車両、機器等もしっかりとした整備を行い、学生の満足度向上を目指し取り組む。 授業の組み立て不足により、時々授業時間ギリギリで終了することがあった。そのため、放課後に片付けをすることがあった。 次年度からは『片付け』までを授業時間に入れた計画をする。 授業前の準備から授業終了の片付けの徹底を行っている。 教材を取り扱う注意を強化し、破損、汚れなどを減らすようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> 機器・備品の適切な取り扱いに心掛けたか又積極的に必要な機器・設備の要望を行ったか 	<ul style="list-style-type: none"> コスト意識をしっかりと持った業務を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科の予算要求に対して「わかる授業」のための教材の見直しを図り、必要と思われる機器購入等の要望を行ったか。 	<p style="text-align: center;">B (2.8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学科の予算要求時期に合わせ希望を聞くが、あまり積極的な発言がない。今一度、カリキュラム内で使用する教材を明確にし計画する必要がある。 MAX-HUBを後援会から購入しデジタルツールの使用が見受けられる。積極的な使用を促すため視聴覚室の設置を試みたが未設置となった。さらにデジタルツールを用いた授業を増やし学生の理解度向上に努めるために積極的な動きが必要である。 OBD検査などの授業に対応できるように教職員が講習会などに参加し知識を備えることが出来た。 <p>● 自己評価の推移 ・R4：B(2.7) ・R3：B(3.0) ・R2：B(2.6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 気がついた故障箇所は修理し安全に使用出来るようにしている。 老朽化している機器や今後必要と思われる機材について、予算要求を行った。 現存している機器・備品の取り扱いについて、学生へ使用方法等を十分に説明して作業を行うことで破損・折損を防いでいる。 叶えられるかの結果は別として、自分が担当している授業での教材の見直しや要望は行えている。 担当科目に使用する機器等の不具合や経年劣化の状況を確認し、修理や交換を提案するように取り組んでいる。 購入機器の必要性や費用対効果の確認などに注意を払い、継続的に提案を行う。 新たに購入する機器備品、ショートパーツについては、しっかりと計画を立てた後に要求をするように心掛けている。 機器購入に関し要望を全く行っていない 今年度は、昨年度よりも前準備の時間を設け、授業に取り組みていたが、故障している機器等の把握が出来ていなかった。 次年度からは、故障機器を見つけたら速やかに報告するよう心掛ける。 授業の振り返りを行い、改善できる内容などあれば次年度に生かせるように計画をしていく。

令和5年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校評価（自己評価）

評価項目 (重点項目)	評価指導	目標 (方策・手立て)	判断基準	自己評価 (令和5年)	結果の考察・分析及び改善策
5. 学生募集	<ul style="list-style-type: none"> 学生募集活動を積極的に行っているか 	<ul style="list-style-type: none"> 募集定員を確保できるように全教職員で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当地区の募集目標を達成できたか。 担当校に特化したオリジナル資料を作成して募集活動を行ったか。 	B (2.5)	<ul style="list-style-type: none"> 第3回入学試験（12月期）終了時点で定員目標に対する充足率が70%（定員50名に対し、35名の入学手続き）の状況となっている。併設校自動車科の生徒数が減少している状況の中、併設校のご協力の下、自動車科からの受験者と併せその他の学科からも受験者を輩出いただけた。毎月の学年会への参加や複数学科生徒への説明の機会をいただいた事などが成果として表れた。 オープンキャンパス参加者の歩留まり率は例年通りの約80%と高い状態を維持しているが、満足度向上やさらなる歩留まり率の向上と併せ、参加者数の増加を達成するための検討が必要である。 ●自己評価の推移 ・R4：B(2.8) ・R3：B(2.7) ・R2：B(2.6) ・目標人員は達成できなかった。 ・オープンキャンパスに参加した生徒に対し、本人向けの写真を印刷し持参した。 ・現在担当地区での100%達成はできていないが、自身で考えた計画に沿っての活動を遂行できるよう努力をしている。 ・次年度は数字に反映されるよう修正(改善)を行う。 ・訪問前に必要と思われる補足資料の必要性を考えて、適時持参をするよう心掛けている。結果に繋がるよう考えて行動をする。 ・自身の担当校へのアプローチの他に、担当校以外へのフォローや訪問対象校の拡大を行っているが、募集目標を達成するには、更なる工夫や取り組み方の見直しを行い定員確保に繋げる。 ・訪問する学校にあった資料や情報を準備すると共に、新たな取り組みなどを資料に盛り込みPRを実施している。 ・募集担当高校のうち重点校が半分以上であるにもかかわらず、1名の受験者にとどまっている状況である。残りの期間少しでも多くの出願者を出せるよう、最後まで取り組む。 ・オリジナル資料に加え、企画広報部のチラシの作成にも協力できていない状況である為、日々目気張り気配りを行い、全員募集が実現できるよう取り組む。 ・今年度は、担当校を持ち訪問することが出来た。今後は更に学生募集に繋げる事が出来る訪問としたい。 ・今後は更に学生募集に繋げる事が出来る訪問としたい。 ・高校訪問やガイダンスの参加を積極的に行えるよう、日頃の業務を残すことや増やさないようにする。 ・アドバイスを元に資料の作成を行っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 学生募集活動において、教育活動成果を適切に対象校担当者に伝えているか 	<ul style="list-style-type: none"> 高校訪問を常に意識して情報発信を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当の高等学校には、毎回面談頂ける先生がいるか。 決められた情報提供に終わらず、高校毎の特色を考慮しプラスαとなる情報提供を行ったか。 	B (3.0)	<ul style="list-style-type: none"> 定員確保を目標に教職員全員が高校訪問を行い、自作の資料などで学校の活動状況や在校生の様子など伝え学生募集を行うことが出来た。 学生募集に関して全教員が提案や要望ができる環境を整え、意識向上を図り一人ひとりが訪問活動によって実績に繋げていきたい。また、SNSを活用したPR活動を活性化していきたい。 ●自己評価の推移 ・R4：B(3.2) ・R3：B(3.0) ・R2：B(2.8) ・重点校においては、自動車整備士の学校として認知されており教育活動を適切に伝えることが出来た。 ・主事の先生と面談する機会が増え、覚えていただいている先生も多くなり、自動車業界の近況も話す事ができた。 ・特定の先生だけに面談をするのではなく、学校の認知度を上げる為にも本校教育活動についての説明を幅広く行うよう実践している。 ・訪問前に必ず各高校のHPを確認して、学校行事などの記載内容について自分が感じた事を含めて情報交換ができるよう準備をしている。 ・担当校および担当校以外でも直接ご連絡のできる先生が多く、担当校以外からの直接的な相談をいただける状況と併せ、本校を知っていただく意味で、別の進路の先生や3学年担任に直接お会いするよう取り組んでいる。 ・本校の特色への理解度を深めていただける伝達を行い、講義などのより高校との密接した関係構築を強化する。 ・重点校及び新たに担当をしている高校に関しては、関係性をしっかりと築くことができた ・事前調査が足りておらず、各高校へのプラスαの情報提供が行えていない。 ・各校で色々なお話しを聞くことが出来たが、今年度は担当校からの入学者が出なかった。 ・次年度からは、担当校からの入学者を出したい。 ・担当校への訪問を積極的に行い、訪問する学校の特徴についてしっかり理解し、募集へ繋げる。
総合評価				B (2.9)	<ul style="list-style-type: none"> ●総合評価の推移 ・R4：B(3.1) ・R3：B(3.0) ・R2：B(2.8)